地区：南三陸町　震災語り部

ジャンル：　震災語り部　バス案内

対象：　教育旅行　団体旅行　個人旅行

南三陸ホテル観洋
震災を風化させないための語り部バス

学びのポイント

・津波の浸水域をバスで実際に巡り、震災遺構として保存されている建物を訪れることで、当時の被災状況を肌で感じ、自然災害の怖さを学んだり、日常生活での防災意識を高めるきっかけとなります。

・津波発生時の避難方法や判断のタイミングが、場所や組織によってどのように異なるかを理解できるよう、旧戸倉中学校、戸倉小学校跡地、震災遺構 高野会館、南三陸町旧防災対策庁舎の4か所を巡り、それぞれの違いを比較しながら学ぶことで、災害時に適切な避難行動をとるための判断のポイントや考え方を知ることができます。

・東日本大震災により町の中心部の約8割が流出するなど甚大な被害を受けた状況や、被災した町民の思い、その背景を知るとともにバスで現在のまちを巡ることで、現地の様子を直に感じながら地域の復興過程とその意味をより深く理解できます。

1．内容

説 明	南三陸ホテル観洋のスタッフや地域住民が案内役となり、南三陸町内の戸倉地区、震災遺構の高野会館、南三陸町旧防災対策庁舎などの津波浸水域をバスで巡り、震災の記憶と教訓を伝える語り部プログラムです。 南三陸町では津波で町の中心部の約8割が流出し、道路標識や信号も失われ、地形さえも変わってしまいました。その混乱の中、支援や報道で町を訪れた人々が道案内を求め、ホテルのスタッフが同行、被災地を案内するうちに、スタッフが自然と震災当時の状況を語り始め、それが現在の語り部バスの原点となりました。 プログラムでは、南三陸町を襲った津波の規模や、戸倉小・中学校での避難の様子、高野会館の建物内にいた327人全員の命が助かった当時の状況などを紹介し、災害への日頃の備えや現場での判断の重要性を伝えています。また、旧防災対策庁舎では、命をかけて避難を呼びかけ続けた職員たちの行動や、防災庁舎を震災遺構として保存することに対する町民の様々な思いを紹介し、一人ひとりが異なる立場や経験の中で命の重さに向き合ってきたことを参加者に伝えています。
実施形態	車中案内 ・教育旅行等、貸切バスでご来訪の団体向け：語り部が参加者の乗車するバスに同乗し、被災地の状況を案内します。 ・ホテル観洋に宿泊する個人のお客様向け：ホテル所有のバスで1日2便（60分版・90分版）の語り部バスを運行しています。

2．情報①

所要時間	約60分～90分 ※その他のお時間はご相談ください
催行人数	1名～最大500名程度まで（大型バス12台まで） 90分コースは震災遺構 高野会館の内部を見学します。一度に見学できる人数は80名までです。 80名を超える場合は、入れ替えでの対応になりますのでご相談ください。
実施可能時間	8:00～日没時間まで ※ホテルのバスを利用した1日2便の語り部バス定期便は、次の時間帯で運行します。 60分コース：8：45～9：45 90分コース：10：15～11：45
定休日	ホテル休館日 ※休館日はHPでご確認いただくか、問合せください
場所	集合場所:南三陸ホテル観洋 案内エリア:南三陸町志津川地区・戸倉地区
予約受付	予約受付：南三陸ホテル観洋 案内実施：南三陸ホテル観洋のスタッフ　または　地域住民

3．料金

料金	●教育旅行等、貸切バスでご来訪の団体向け　町内バス案内：バス1台につき5,000円（税込） ●ホテルのバス利用の定期便： 60分コース（8：45発）：大人500円・子ども（小学生以下）250 円 90分コース（10 :15発）：大人1,000円・子ども（小学生以下）500円		
支払い方法	事前振込 ※旅行会社は後日請求書払いでも可能	キャンセルポリシー	当日キャンセル：料金の100%

4．アクセス

所在地	＜集合場所＞ 南三陸ホテル観洋 〒986-0766 宮城県本吉郡南三陸町志津川黒崎99−17 Googleマップ：https://maps.app.goo.gl/uyQvvKdN3oTygwxn8	
駐車場	＜集合場所の駐車場＞ 南三陸ホテル観洋：普通車200台、大型バス20台　※障がい者等優先あり（要予約）	
アクセス	車	**[南三陸ホテル観洋]** 三陸自動車道志津川ICより約10分 三陸自動車道南三陸海岸ICより約8分　※気仙沼方面からのアクセス 三陸自動車道桃生津山ICより約15分 ※仙台、松島方面からのアクセス
	その他	**[南三陸ホテル観洋]** 電車利用の場合 JR気仙沼線BRT陸前戸倉駅より徒歩で約30分　※陸前戸倉駅より事前予約にて送迎可 車で約2分
各地からの所要時間		**[南三陸ホテル観洋]** ・仙台駅から車で約90分 ・仙台空港から車で約90分 ・松島海岸から三陸自動車道を経由して車で約60分

5. 情報②

トイレ	・南三陸ホテル観洋：男性用・女性用・バリアフリートイレ ・南三陸町震災復興祈念公園：男性用・女性用・バリアフリートイレ				
バリアフリー	・南三陸ホテル観洋：入口にスロープあり ※ホテル所有のバスは車椅子対応ではありません ※90分コースでは、震災遺構 高野会館の内部を見学しますが、高野会館はバリアフリー対応ではないため、車椅子をご利用の場合は外観のみの見学となります	買物施設	＜あり＞ ・南三陸ホテル観洋 ・南三陸さんさん商店街 ※案内中の買い物時間は設けておりません	食事施設	＜あり＞ ・南三陸ホテル観洋 ・南三陸さんさん商店街 ※案内中の飲食時間は設けておりません

6. 注意事項

服装	雨具　※バス案内中に下車見学をするスポットがあります
雨天時の対応	決行
その他	高野会館内部の見学は、安全対策のためヘルメット着用のもとで行います ヘルメットはホテル観洋で用意しています

7. 災害時の対応

周辺の避難場所	プログラム中に避難を要す場合は、語り部が自治体の指示に従い避難誘導します

8. その他

事前学習資料	南三陸町公式サイト「東日本大震災による被害の状況について」 https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/soshiki/1001/2/2/1/1825.html
外国語対応	通訳が帯同する場合は可能　※語り部と通訳者が交互に話すため、約2倍の時間がかかります
周辺施設	南三陸さんさん商店街：南三陸ホテル観洋より車で約5分 ひころの里：南三陸ホテル観洋より車で約11分 南三陸YES工房：南三陸ホテル観洋より車で約12分

9. その他のプログラム 震災講話

震災講話	東日本大震災の発生後、南三陸ホテル観洋では宿泊客やスタッフ、地域住民が避難し、最大で常時1000名以上と共同生活を送りました。その中で、スタッフは限られた食料や情報の中で判断を行い、各自の役割を果たしながら危機を乗り越えました。 講話では、震災直後から現在までの実体験をもとに、当時を知る女将やスタッフが体験をもとにお話しし、災害時の判断力やリーダーシップ、協力・助け合いの大切さ、地域復興や人とのつながりの意義について伝えます。
料金	①南三陸ホテル観洋 館内のホール・会議室 講話は無料で実施。会場使用料のみ別途発生します。会場使用料は南三陸ホテル観洋にお問合せください。 ②出張 要相談 ③オンライン 要相談

10. お問合せ・お申込み先

問合せ 申込み先	**南三陸ホテル観洋** TEL:0226-46-2442 FAX:0226-46-6200 MAIL:minamisanriku●kanyo.co.jp(●を@に変更してください) サイト:https://www.mkanyo.jp/
申込期限	●教育旅行等、貸切バスでご来訪の団体向け 町内バス案内 ：予約状況によりますので、問合せください ●ホテルのバス利用の定期便 ： 宿泊予約時、または宿泊中に、催行日前日の午後9時までにホテルフロントへお申し込みください。

11. 案内ルート（例）：所要時間90分

戸倉公民館
旧南三陸町立戸倉中学校

震災遺構 高野会館

ご案内コース例

【震災を風化させないための語り部バス（90分コース）】

※ 90分コースでは高野会館に入り内部を見学することができます。60分コースでは内部には入らず、外観からの見学となります。

集合

南三陸ホテル観洋

バス移動（約6分）

見 学
（下車）

戸倉公民館（旧南三陸町立戸倉中学校）

現在は戸倉公民館として使用されている旧戸倉中学校は、1960年のチリ地震津波を受け、町の指定避難場所を兼ねて海抜約20メートルの高台に建てられました。しかし、東日本大震災では津波の高さが約22メートルに達し、海岸側と山側の二方向から押し寄せた津波により、校舎1階と体育館が浸水し、尊い命が失われました。

津波の規模や波の動き、被害状況が想定を超えたことを現場で体感することが、東日本大震災を知る第一歩となります。

見 学
（車窓）

南三陸町立戸倉小学校跡地

志津川湾南岸、海から約300メートルの位置にあった戸倉小学校では、津波避難をめぐり、高台避難か屋上避難かについて教員間で1年間にわたる議論が続きました。最終的に「災害時の状況に応じて避難経路を判断する」との方針で議論を終えた直後に東日本大震災が発生。校長の判断で高台への避難を即決し、教職員と児童91名が迅速に避難、全員の命が守られました。

臨機応変な判断と行動を行うために、災害マニュアルを常に見直し、組織内で意見を共有、議論できる体制を整えることの重要性を伝えています。

震災で被災する前の戸倉小学校

バス移動（約10分）

見 学
（下車）

震災遺構 高野会館

高野会館は、志津川湾から約300メートルの位置に建つ鉄筋コンクリート造の総合結婚式場でした。東日本大震災当日、館内では高齢者による芸能発表会が開かれていましたが、その最中に大きな地震が発生しました。高台への避難が難しいと判断したスタッフが、即座に屋上への垂直避難を決断。津波が屋上の足元にまで達する状況の中、327名と犬2匹の命が救われました。

所有者であるホテル観洋（阿部長商店）は、震災の脅威とともに、「想定にとらわれず、柔軟に判断し行動することの大切さ」を未来へ伝えるため、高野会館を震災遺構として保存・公開しています。

※90分コースでは高野会館に入り内部を見学することができます。

バス移動（約10分）

慰 霊
・
見 学
（下車）
・
案内終了

南三陸町旧防災対策庁舎

東日本大震災当日、南三陸町旧防災対策庁舎では、庁舎に残った職員が大津波警報の発令下、無線を通じて住民に避難を呼びかけ続けました。しかし、約12メートルの高さがあった建物の屋上を津波が越え、多くの職員や住民が犠牲となりました。震災後、「解体か保存か」で意見が分かれましたが、有識者会議での検討を経て、2024年7月1日付で震災遺構として保存されることが決まりました。

庁舎は、想定を超える災害の恐ろしさを示すとともに、命の尊さに向き合う場としての役割を果たしていることを伝えます。